2019 年度「書物との出会い（口）」（男と女）リーディングリスト

*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 0~3まで (数が大きいほど難易度が高い) / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) 若桑みどり (2003) 『お姫様とジェンダー』ちくま新書、740 円、ISBN-10 : 4480061150
- (2) 学問領域 : 社会学、ジェンダー・スタディーズ
- (3) キーワード : ジェンダー
- (4) 難易度 2
- (5) 白雪姫、シンデレラ、眠り姫などのディズニーアニメをジェンダーの視点から読み解く。筆者の授業を受けた学生の感想も掲載されており、この本を読み終えた後には、これまでとは異なったディズニーアニメの見方ができるようになっているはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 本橋哲也 (2015) 『ディズニー・プリンセスのゆくえ』ナカニシヤ出版、2160 円、ISBN-10: 4779510589
- (2) 学問領域 : 社会学、カルチュラル・スタディーズ
- (3) キーワード : ディズニー
- (4) 難易度 2
- (5) 白雪姫やシンデレラといったディズニーアニメから、近年の実写版シンデレラやマレフィセントまでを題材として扱い、カルチュラル・スタディーズの側面からディズニー・プリンセスについて考察した本。上記の『お姫様とジェンダー』と比較してみるとそれぞれの視点が際立って面白い。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 伊藤公雄・牟田和恵編 (2015) 『ジェンダーで学ぶ社会学 (全訂新版)』世界思想社、1,944 円、ISBN : 4790716686
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : ジェンダー、社会学
- (4) 難易度 2
- (5) 「育つ」「学ぶ」からはじまり「シェーカツする」「愛する」「ケアする」等、この本ではトピックごとにジェンダーについて学ぶことができる。社会学領域におけるジェンダー論の基本はもちろんのこと、変化球も組み込まれており、何かしらの新しい視点を提示してくれるはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 井上俊・伊藤公雄編 (2010)『社会学ベーシックス第5巻 近代家族とジェンダー』世界思想社、2,160 円、ISBN: 978-4790714491
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、ジェンダー、フェミニズム
- (4) 難易度 2
- (5) 社会学がこれまで蓄積してきた知的成果を基本文献の解題という形でまとめたシリーズの 1 冊で、近代家族やジェンダーについて学ぶことができる。取り上げられた文献はその歴史的意義や現在の評価を考慮して選ばれており、文献解題は、内容の解説、著者のパーソナル・ヒストリーに関するスケッチ、学説史上の背景や意義の 3 セクションから成る。近代家族のゆくえ、ジェンダーという視座、いずれも基本文献に触れることで学ぶことは多い。
- (6) 推薦者：時岡晴美（教育学部）

- (1) 上野千鶴子 (2010)『女ざらいーニッポンのミソジニー』紀伊国屋書店、1,620 円、ISBN:978-4-314-01069-6
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：ミソジニー、性の二重基準、自己嫌悪、現代社会
- (4) 難易度 3
- (5) 男性にとっての「女性嫌悪」、女性にとっての「自己嫌悪」に着目して、様々な角度から現代社会を解説しながら、「男社会」の現実を解剖していく書である。ジェンダー研究のパイオニアとされる著者が、「どんなに不快であれ、そこから目をそむけてはならない現実」として書き継ぎ、「それを知ることによって、それがどんなに困難でも、その現実を変えられる可能性がある」とし、「共感も反感も含めて、本書には波紋を拡げてほしい」と言っている。
- (6) 推薦者：時岡晴美（教育学部）

- (1) 水無田気流 (2015)『「居場所」のない男、「時間」のない女』日本経済新聞出版社、1,404 円、ISBN : 978-4-532-16955-8
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、男性問題、ワークライフバランス、サラリーマン家庭
- (4) 難易度 2
- (5) 現代の日本人男性は、仕事以外の人生の選択肢に乏しく「世界一孤独」とされ、日本人女性は、婚活・妊活などのタイムリミットに追われ続けて自分の時間が確保できない状況におかれている。サラリーマンの夫と妻という現代の家族のありように、本当に幸福なのかと疑問を投げかけ、男女ともに幸福になるための方法論を展開している。現在の気鋭の社会学者による書であり、かなり個性が強いので、十分に読み込んだ上でしっかり反論してもらいたい。
- (6) 推薦者：時岡晴美（教育学部）

- (1) 濱田智崇・[男] 悩みのホットライン編 (2018) 『男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と支援』、ミネルヴァ書房、2,808 円、ISBN : 978-4623082438
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：男性問題、男性相談
- (4) 難易度 2
- (5) 男性ならではの問題を、「相談」という切り口から示したのが本書である。相談担当者向けの専門書でもあり、社会問題だけでなく各事例に対する支援の実際についても書かれているのが特徴である。
- (6) 推薦者：高田 純 (保健管理センター)

- (1) 伊藤公雄 (1996) 『男性学入門』、作品社、1,728 円、ISBN : 978-4878932588
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：男性問題、ジェンダー
- (4) 難易度 1
- (5) 『男性学』とは何か、その古典ともいえる本書が発行されて 20 年以上が経っているが、今もなお迫力がある。現代では理解しがたい内容もあるかもしれないが、親世代の価値観と重なるところもあるので、時代的な背景も考慮しながら読み進めていくとよいだろう。
- (6) 推薦者：高田 純 (保健管理センター)

- (1) 河合隼雄 (2008) 『とりかえばや、男と女』新潮社、1,296 円、ISBN:4106036169
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：ジェンダー、深層心理
- (4) 難易度 2
- (5) 『とりかえばや物語』は、平安時代に描かれた男女逆転の物語である。「男らしさ」とは？「女らしさ」とは？物語からみえてくる、ジェンダーと性愛の深層を心理学の立場から読み解いていく。
- (6) 推薦者：高田 純 (保健管理センター)

- (1) 高橋秀樹(2004)『中世の家と性 (日本史リブレット)』山川出版社、864 円、ISBN : 978-4634542006
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 家族史、生活史、性差
- (4) 難易度 1
- (5) 日本中世の家族史・生活史について、女性史・男性史、あるいは性差の視点から、これまでに明らかになっている基本的な情報や歴史認識についてわかりやすく論じている。基本的な知識を身につけるのに適当な良書である。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 清水克之 (2015)『耳鼻削ぎの日本史』洋泉社、950 円、ISBN : 978-4-8003-0670-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 身体刑、習俗、性差、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 前近代の日本列島で行われていた耳鼻削ぎの身体刑は、鎌倉時代の地頭の非法行為として高校の日本史教科書にも登場するなど、よく知られているところである。しかし、耳鼻削ぎの習俗は、おもに女性に対して行われた身体刑であることはあまり知られていない。本書は、その習俗が存在した歴史的意味を理解し、いまでも現実に世界で行われているこうした習俗について、考えるきっかけになるであろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 池上俊一 (2001)『身体の中世』筑摩書房、1,500 円、ISBN : 4-480-08666-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (西洋史)
- (3) キーワード : 身体、表象、感性、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 西洋中世社会における人間や人間の身体、あるいは目や耳など人間を構成する様々な部位等に対する認識のあり方、または人間の表情やしぐさのあり方について広く考察したものである。本書は「男と女」の論点にとどまらず広い視野で論が展開しているが、講義内容をふまえて「男と女」の視点から読み解くことで、様々な角度から「男と女」がどう認識されてきたか、理解を深めることができる。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 網野善彦 (2005)『中世の非人と遊女』講談社学術文庫 1,037 円、ISBN : 978-4-06-159694-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 心性、女性、差別、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 日本の歴史学が農業、とくに水田を軸とした社会の分析に力点を注いできたことに対し批判的な立場をとりつつ、職人などの非農民や女性のあり方を考察してその歴史的立場について論じている。とくに、日本列島における「差別」意識の歴史的あり方やその変化のあり方について踏み込んだ検討をしており、そうした問題について理解を深めるきっかけになるだろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 長谷川まゆ帆 (2007) 『女と男と子どもの近代 (世界史リブレット)』 山川出版社、787 円、ISBN-13 : 978-4634348905
- (2) 学問領域 : 社会史
- (3) キーワード : 家族史、ジェンダー
- (4) 難易度 2
- (5) 19 世紀以降に理想とされてきた女と男と子どもの関係は、それ以前から形づくられてきた、人間の感じ考えるその仕方や、社会的結合関係に、すでにその萌芽が埋め込まれていた。本書では、16~18 世紀の、とくにフランスで見られた変化に光をあてながら、近代社会を再考していく。
- (6) 推薦者 : 村上弥生 (男女共同参画推進室)

- (1) 柳田國男 (2013) 『妹の力』 角川ソフィア文庫、802 円、ISBN-13: 978-4044083168
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 民俗学、柳田國男、女性
- (4) 難易度 3
- (5) かつて女性には神秘の力があるとされ、祭祀を取り仕切り、信仰の対象にもなっていた。女性に託されていたものとはなにか。全国の民間伝承や神話などを丹念に検証し、担っていた役割を明らかにした。「遠野物語」で有名な柳田の女性の力についての著作集。
- (6) 推薦者 : 村上弥生 (男女共同参画推進室)

- (1) 柳田國男 (1993) 『明治大正史 世相篇 新装版』 講談社学術文庫、1,490 円、ISBN-13 : 978-4061590823
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 柳田國男、生活史
- (4) 難易度 3
- (5) 「毎日われわれの眼前に出ては消える事実のみによって、立派に歴史は書けるものだ」という著者が、明治大正の日本人の暮らし方、生き方を、民俗学的方法によって描き出した画期的な世相史。このような社会の変化の中で男と女の関係性も変化していくことを考えてほしい。
- (6) 推薦者 : 村上弥生 (男女共同参画推進室)